

令和4年度第2回倉敷市社会教育委員会議 会議録（案）

（開催日時）令和5年1月31日（火）9時30分～10時30分

（開催場所）倉敷市公民館 第2会議室

（議題）（1）教育行政重点施策の取組について－令和4年度取組状況－
（2）その他

（出席者）委員15人（別紙：社会教育委員名簿 参照）、事務局10人

（傍聴者）なし

（報道）なし

（会議内容）以下のとおり

1 開会

2 あいさつ

－ 教育長によるあいさつ －

3 協議

（1）教育行政重点施策の取組みについて－令和4年度取組状況－

－ 事務局からの説明 －

社会教育分野の主要事業・重点事業を掲載した資料をもとに、生涯学習部関係の重点施策・主要事業の主な事業について、令和4年度の取組状況を説明。

－ 事前質問12件・事前意見5件－

資料「事前質問回答票」のとおり回答。

（議長）他に質問や意見はないか。

（委員）第1回目の社会教育委員会議でも話題となったWi-Fiの整備について、「令和5年度に基幹公民館の会議室から順次運用できるよう検討する。」と回答にあったが、それでは遅いのではないか。スマホの所持率や令和5年度から市内の小・中・高等学校ではタブレット（学習者用端末）の持ち帰りが行われるにあたり、家庭にもWi-Fi環境の整備をしてほしいというメッセージを（教育委員会から）出している。そういった中で、学ぶところ（社会教育施設等）にWi-Fi環境が整備されていないというのは、時代的なニーズと合っていないのではないか。フリーWi-Fiというのは、地域基盤だと考えている。例えば、中央図書館には、かつて整備されていたWi-Fiが今は整備されていない。しかし、隣接する観光案内所には整備されているという状況である。やはり、市民の学ぶための環境整備を進めていくためには、より一層スピードを上げて、Wi-Fi環境を整備すべきだと考える。

（議長）これから海外からの観光客がたくさん入ってくる中で、フリーWi-Fiの設置は、当たり前となりつつある。それが遅れる（フリーWi-Fiの未設置）ということは、それだ

け地域の魅力がなくなることにも繋がるので、観光に絡めてよいので、Wi-Fi 環境の整備を早急に進めるべきだと考える。また、情報機器を操作できる人材が不足していることも問題であるので、人材の配置も考えていただきたい。

自然史博物館の移転について、今は駅に近い所にあり利便性がよいが、ライフパーク倉敷に移転となると、駅から遠く移動手段が限られるので、そのあたりも考えて整備していかなければならないと考えている。また、自然史博物館は、独立した施設となるのか。

(部 長) 先日、市民文教委員会で、自然史博物館のライフパーク倉敷への移転については、個別施設計画の中で方針を示している。現在のライフパークの施設内に自然史博物館が入るのではなく、現時点では、別棟の建設を計画している。来年度、基本計画を立てていく中で、バランスの取れた、利用しやすい施設となるよう、具体的な内容について検討していく。

交通手段については、バスの運用を担当している交通政策課とも連携していきながら進めていきたい。

(委 員) 1点目、少年自然の家（PFI 施設整備運営事業）について、今年度、山の学習に児童を引率した。自然環境に配慮されたぬくもりを感じる温かい施設となっていた。1泊2日の研修の中で、児童数名が日帰り予定だったが、木のぬくもりを感じる新しい施設（宿舎や食堂、玄関ホール等）を見て、日帰り予定の児童全員が宿泊することとなった。今後、老朽化した施設を建替えていくにあたり、予算の問題もあるが、利用者がぬくもりを感じるような施設をつくっていただきたい。

2点目、二十歳の集い（記念事業）について、ボランティアとして参加した。オープニングセレモニーでは、3つの団体がコラボで参加され、とてもすばらしい内容だった。コラボすることや連携すること（例えば、婦人会と子ども会）は、これから社会教育にとってとても大切なことだと考える。また、委員から、精思高等学校の移転（旧霞丘小学校の施設へ）を機会に、近隣の小・中学校と連携した取組をしたいという意見があったが、これから社会教育には、そのような様々な団体と連携した取組が大切ではないかと考える。

3点目、コミュニティ・スクールについて、この制度がなかなか広まっていかないということだが、地域によって、一つの中学校区に複数の小学校がある地区では、地域の人材を取り合いになる場合がある。現在の勤務しているところでは、1つの中学校に2校の小学校と保育園、幼稚園で構成され、その中学校区でコミュニティ・スクールを立ち上げている。そして、保・幼・小・中学校園が「笑顔を増やそう」を共通の目標とし、発育段階に応じた教育活動に取り組んでいる。この取組は、少しずつ地域に広まっている。コミュニティ・スクールの啓発や拡大は、時間はかかるが、「少しずつ」をキーワードに取り組むことが大切だと考える。

(2) その他

(議長) 連絡事項等はないか。

(委員) 子ども会から。子ども会には、「子ども安全共済会」という保険がある。年間300円で、ケガ等をした時の保険料が支払われる。その「子ども安全共済会」の特約で、「放課後安全プラン」という年間一人500円の保険が、翌日の臨時総会で決定する見込みである。この保険は、各NPOやボランティアが利用する年間1,000円ほどかかるボランティア保険やスポーツ保険の代わりとして利用できるのではないかということで報告する。

(議長) 放課後安全プランという保険は、他にも利用できるのか。

(委員) 全子連(全国子ども会連合会)は、この「放課後安全プラン」という保険について、子どもとその指導者が対象であるが、特約で、幅広く放課後・休日の活動や学童保育等の子どもたちと支援員にも広げたいと考えている。子ども会としては、子どもは地域の宝であり、子どもたちへの支援ができればと考え、ご提案とご報告とさせていただいた。

(議長) 結果が分かれば、他の団体にもお知らせいただきたい。

(委員) 「地域子育て支援拠点」を主催している。現在、子ども家庭庁ができ、様々な子ども向けの施策が変わりつつある中、妊婦や生まれたばかりの子どもの保護者も含めて、この層が社会教育の対象から漏れているように感じている。しかし、この層(妊婦や生まれたばかりの子どもの保護者等)は、とても大切で、この層にアプローチしていくことで、社会教育の展開が広がっていくのではないかと考えている。現在、社会教育委員に、地域子育て支援拠点関係者が2名在籍しているので、ぜひ、何か役立てていただければと考えている。また、活動を進めていく上で、Wi-Fi環境の整備は、とても大切であるので、「来年度に整備を検討する」ではなく、早急に進めさせていただきたい。

(委員) 小学校には、保護者一人でたくさんの子どもを育てている家庭がある。学校だけで、保護者を支えるということは難しい。学校には、心理カウンセラーやスクールソーシャルワーカーが配置されているが、助言や相談に乗ることはできても、具体的に家庭を支援することはできない。地域子育て支援拠点が身近にあればありがたい。

(委員) 地域子育て支援拠点は、市内に20か所あり、およそ中学校区に一つある。しかし、これまで小学校との繋がりがなく、小学校へのアプローチが難しいと感じていた。今後は、小学校や先生とも繋がって、一緒になって幼い子どもたちとその保護者を見守っていただきたい。岡山市は子育て支援拠点が保育園併設のみだが、倉敷市は、保育園だけでなく、大学にも併設されている。また、民間のNPOもあり、バラエティーに富んだ拠点が揃っている。今後は、子育て支援拠点について知つてい

ただく努力もしてまいりたい。

(委員) コロナの制限がなくなり、支援拠点に出てこられる保護者の方の話を聞くと、コロナ禍の3年間は、外にも行けない、誰とも話をすることができないなど、大変な思いをされた方が多いことが分かった。そのような会えない状況で繋がるために、ラインやSNS(Instagram、Facebook)などのインターネットを使ってうまく繋がっていくしかない。子育ての始めの頃に子育てについて悩みや相談ができる場があれば、その後、多少の困難があっても、自分の力で立ち直ることができる考えている。子育て支援拠点は、子育てをする保護者やその子どもたちにとってとても大切な場所であると考えている。

また、身近な地域にある公民館などを利用しながら、密室での子育てにならないように、いろんな方の力を借りて、保護者の方をサポートしていきたいと考えている。

(議長) 子育てをしている保護者は、公民館で実施している家庭学級の講座にも参加できなかつたりするので、Wi-Fiの設置も含め、行政の方で支援していただきたい。

4 閉会

— 教育次長によるあいさつ —

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

令和5年 2月 20日

議長

赤木恒雄